

# あおぞら通信

No.5 特大号(2007年4月20日発行)

発行人：あおぞら自然共育舎 早川広美

前号から半年が経ってしまいました！今号から題名も新たにスタートします。よろしくお願いします！

## ★最近の活動から (06. 10~07. 3月)



稲刈り後、ハザにかけて  
2~3週間乾かす

♪稲刈り♪10月、今年もやって来ました稲刈りの季節。幼児の親子、小学5年生、養護学校の高校生らと収穫の喜びを味わいました。しかし、今年の実りは今ひとつ(昨年の6割くらいの収量)。4~5月の低温の影響で苗が弱かったのでしょうか。「苗半作」(苗の良し悪しで作柄の半分は決まってしまうこと)の言葉を改めて思い出します。でも、稲刈り後の10~11月に雨が少なかったため、乾かすにはちょうど良く、助かりました。

♪児童館でネイチャーゲーム♪10/29 新宿区戸山児童館ことぶき館からのご依頼で、戸山公園で楽しく自然とふれあう1日を実施しました。大都会にこ

れだけの自然が残っていることに感激しつつ、<フィールドビンゴ>やその公園に棲むカラスやオナガになって鳥の生態を学ぶゲーム、落ち葉や木の実を探そう!同じものを見つけよう!などで秋の自然を楽しみました。

♪通所授産施設 共働舎の秋まつり♪11/19 今年は「ドングリごま」や「ドングリ笛」、「葉っぱのこすり出し」、「葉っぱの魚釣り」、去年もやった「くつつきダーツ」(右写真)などを屋外で実施。午後からの冷たい雨にもかかわらず、子どもたちがたくさん来てくれて嬉し楽しの1日でした。友達Hちゃんも息子を連れてはるばる東京から!もちろん、共働舎の利用者の方も一緒に手伝ってくださり、大活躍でした(来年は吹き矢をやろう!という提案もすでにあり)。



♪野鳥観察入門♪12/17かねてより構想していた入門者向けの野鳥観察会を勤務地の公園で実施しました。実は私自身、5~6年前までは、いわゆるバードウォッチングの面白さをなかなか実感できずにいました。多分、双眼鏡もうまく使えず、だからよく見えず、遠くにいる生きものにあまり親近感がわかなかったのでしょうか。それは、「バードウォッチング=双眼鏡で遠くの鳥を識別する」という図式にはまっていたからだと思います。そこで、まずは「肉眼で鳥を見ながら」、「鳥はどんな所にいて何をしているのか」、という点に重点を置いた観察



## ビオトープ管理プロ養成講座、修了!

### 自然体験・再生・創出を3本柱に今後展開

有)カルティベイトカンパニー(人と自然の研究所)が主催する「第1回ビオトープ管理プロ養成講座」を受講し、無事に修了しました。06年9月から07年2月まで月に1度の全6回コースでしたが、毎回課題もあり、6回以外に補習もたくさんあり、かなり密度の濃い半年でした。

ビオトープ管理士の資格をさらに仕事に活かしていくために受講しましたが、生きものの視点で自然を見るとはどういうことか、回りの人をその気にさせるにはどうすれば良いのか、生物調査の手法などなど、現場での実習を中心に学んだことは、どれも私に必要な内容でした。

学んだことは活かす!これまで私がやってきている「自然体験」に、「再生・創出」を加え、「自然と共に育つ」礎が広がってきました。今後もまだまだ自己研鑽を欠かせませんが、少しずつでも社会の役に立てるようがんばります!



実習地の池(埼玉県和光市)

会にしてみました。参加者からは、スズメのような身近な鳥に興味を持った、家の近くでも観察してみたいなどの感想をいただきました。私自身、気づかされたのは大きな望遠鏡で鳥を見た時の皆さんの感動です。肉眼での観察の一方で、拡大して手に取るように鳥を見ることもできるということは、誰にとっても感動的だと思いますが、視力が低下し始める年配の方には特に大きな感動を与えるのかもしれないと感じました。

**♪小4自然観察にて♪**秋から冬にかけてはタネの広がり方や樹木の観察、落ち葉の下の生きものや、ヤマアカガエルの卵の観察などを実施しました(写真左)。



**♪<カメラゲーム>でカラー現像の試み♪**二人組みの1人が写真家、1人がカメラ役(目を閉じる)になり、写真家が自分で選んだ被写体(動植物など自然のもの)の前までカメラ役を連れて行き、合図があった瞬間だけカメラが目を開き被写体を「撮る」というネイチャーゲーム。その後、撮った写真を白いカードに鉛筆で描いて「現像」します。と

ても新鮮な体験ができるのですが、時に「絵が苦手」ということで現像の部分をおもしろくないという声もあると聞きました。一瞬の自然の美しさを体験することが大切なので、現像は必ずしもやらなくても良いのですが、「色」を使ったらどうかな、と思いやってみました(友人 M のアドバイス)。鉛筆だと形をきちんと描かないとあまりサマにならないのですが、色を使えば、脳裏に残っている色を紙の上に塗るだけでもいいのです(写真左)。鉛筆でも色で描いてもどちらでも良いことにしました。良い手ごたえを感じているので、今後も継続してみます。



**♪S 池ビオトープに土入れ、そして移植♪1月～3月**かい掘りをした池の土を S 池ビオトープに入れ、いくつか植物を移植しました。同時に、昨年3月に移植した植物の経過も確認。おおむね順調でした。土の一部は発芽実験中。

### ★トピック

**♪共働舎「とんぼガーデン」改修決定♪**前号でもお知らせした共働舎の

「とんぼガーデン」(写真右・横浜市泉区)。このほど、改修が決定しました！人と自然の研究所さん、ビオトープ管理士の三森典彰さんとの協働です。6月から利用者の人たちとのワークショップ、改修作業を経て7月初めに改修終了、秋に「生きものから見る成果確認」…というスケジュール。再びトンボが舞う池にしよう！



この池がどんなふうが変わっていくのか  
(06年11月撮影)

**♪生きものが行き来する場を創ろう～ビオトープネットワークの夢♪**

とんぼガーデンを改修するにあたり、生きものは人工的に入れるのではなく、「回りから来てもらう」のが基本。植物は歩けないのでいくらか植栽することもあります。それも在来の植物を尊重します。そんなわけで、周辺の自然の様子や調査が欠かせません。夏ごろから時間を見つけては、とんぼガーデンから1km圏内を中心に歩いていました。

すると、急速な開発の一方で、樹木の多い公園やビオトープのある小学校や大学もあり、また共働舎の前を流れる川のすぐ下流では新たに遊水地とビオトープを造る計画があることもわかってきました。

自然の豊かな場所は広いに越したことはありませんが、だからと言って小さな面積の場所がなくても良いということではありません。

小さな自然をつなげていければ、点が線になり、生きものが行き来できるネットワークができる。それは、都市の自然を創る可能性なのかもしれないと思っています。



### 昆虫がテーマの映画★その2 『蝶の舌』、スペイン、99年

スペイン内戦前夜の1936年。小さな村の8歳の男の子モンチョは病弱で内気だったが、老齢のグレゴリオ先生と出会い、心を開いていく。先生は野外にモンチョを連れ出しいろいろな生きもののお話を教えてくれた。チョウには渦巻状の舌があることも。2人之间には確かに信頼と友情があった。

ある日、「共和派」の大勢の人が捕まり、先生もその1人として群衆の前に現れた。石を投げ、罵声を浴びせなくては自分も捕まる…親に促されたモンチョは先生に石を投げ、そして叫んだ言葉は…。2人の気持ちを思うと、最後が悲しい映画です。



## ★自然と遊ぼう日記 (06. 10~07. 3月)

♪宇宙人の声・カンタンの声♪10/14 仕事からの帰り道の夕暮れ時、草むらの中から「ルルルル…」という不思議な声が。子どもの頃よく見ていたウルトラセブンに出てくる宇宙人が発する声に似ている！でもこれ、カンタンというコロギ科の昆虫の声とわかりました。いつか秋の夜に「虫の音鑑賞会」なんてやってみたいなあ。

♪秋の荒起こし♪稲刈り後、12月の初めまでの間に田んぼを鍬で起こします。すると何も生きものがいないかに見える田んぼの中からドジョウやザリガニが！子ども達も大喜び。ほんとに湿った田んぼだな～と思う。

♪アキアカネが田んぼで生んだ卵は…♪11月下旬、荒起こし前の田んぼの水溜りにアキアカネ(赤とんぼ)が産卵するのを見ました(写真左の田んぼ)。その約1週間後、この田んぼは起されて右のような状態に。さて果たしてアキアカネの卵はどうなってしまったのでしょうか…？春のお楽しみ！



♪いたーっ！ハグロトンボのヤゴ♪ピオトープ管理プロ養成講座の課題として、近所の柏尾川で生物調査。前号でお伝えした「商店街を飛ぶハグロトンボ」、そのヤゴを見つけて小躍りました！やっぱりいたんだ、ここに！本来は薄暗い林などで生活するようですが、林が無いので商店街の暗がりを飛んでいたのでしょうか。夏にハグロトンボを見かけた時にもお知らせした、県立生命の星・地球博物館の学芸員である荻部治紀さんにヤゴ発見のメールを送ったところ、すぐにお返事をいただき2度感激しました。

♪福寿草の植え替え♪お正月の鉢花として人気が高い福寿草。浅い鉢に合わせて根が短く切られているって、知ってました？私は知りませんでした。いろいろ調べていてそのことを知り、深い鉢に植え替えました。去年の短い根と新しく伸びた長い根が窮屈そうに縮こまっていた。これでノビノビ～とできるかな？



♪正月からウンがいい？♪元日、家の前に落ちていた鳥のフン。その中に混んでいた種を植木鉢に蒔いてみました。さて、何の芽が出るか…？庭の赤い実が鳥に食べられてなくなる順番はナンテン(南天)→ピラカンサ→センリョウ(千両)→マンリョウ(万両)だという人がます。この種もその中のどれか、かな？

♪七草摘みのススメ♪1月7日は春の七草をおかゆに入れて七草がゆ。7つ全部じゃなくてもはこべ・ごぎょう(ははこぐさ)・なずなは探しやすいかも。来年は探してみて！

♪田んぼの畦と水路の補修♪冬の間の大切な仕事。乾いているように見えてとても粘っこい田んぼの土を粘土のようにして補強します。



♪雨が降った！田んぼへ走った！あった！♪

1/18 何って、ヤマアカガエルの卵ですよ！1月下旬から2月いっぱいまでの雨が降る夜、ヤマアカガエルが冬眠から出てきて産卵する可能性が高いのです。いや～毎年産んでくれてアリガトウ、ちょうど良い水の深さになるように調節したり、草を適度に刈ったりして産みやすくしています。



♪2月、モンシロチョウ飛ぶ♪やはり今年は暖冬だ。第一、我が家ではこの冬1度も鍋物をしなかった。いつも木枯らしが吹くと食べたくなるコッシード(スペインの煮込み料理)にも食指が動かない。そんな折の2月上旬、柔らかな日差しを浴びてモンシロチョウが飛ぶのを見ました。モンシロチョウは通常蛹で冬を越すとされていますが、もう羽化？それとも暖かいので成虫で越冬？

♪<sup>けいちつ</sup>啓蟄にふさわしくヒキガエルがカエル合戦♪3月初め、啓蟄(二十四節気の1つで冬眠していた生きものが這い出る頃)に合わせるように池でヒキガエルが産卵を開始しました。



♪露天風呂の良さを発見！♪3月はじめに群馬県武尊牧場スキー場に行きましたが雪が少なく滑りにくかったので、急遽後半を温泉に。今まで温泉も露天風呂もスゴク好き！というわけではなかったのですが、今回なぜか露天風呂にとてもゆ〜ったり気分。山や空、大地から湧き出す泉に、たくさんの気もらったような気がします。

♪カワセミ(雄)がエサをプレゼントするのを見た！♪3月のある日。所用の帰りに近所の柏尾川を何気なく見ていると、カワセミの雄がメスにエサのプレゼントをするのを目撃！これが求愛給餌というヤツかあ。メスはじーっとしていてオスが来るとぱっと口を開けてエサをもらうのです。これでカップルになれたのかなあ。



♪「山笑う」、芽吹き季節到来♪3月下旬になると、里山の木々は刻々と色を変えていきます。この時期が一年の中でも最も移り変わりが早いかもしれません。3日もあけると、あっという間に変わっていきます。春の芽吹き、命の勢いを感じます。

### ★いろいろ思ったことなど

♪ゴイサギの死骸から～翼のしくみってスゴイ！♪ゴイサギ



(鳥)が何かに襲われ命を落としていた。私は骨の標本を作りたいかった！(でも今回はあきらめた)が、土に埋める前に翼を手で持って開いたり閉じたりした時に、その翼

開閉(折りたたみ)の精巧さに感嘆した。本当によくできている。こういうことをさわって体験できる標本を作れないかなあ。もうすでにあるかもしれないけど…。

♪出雲大社の縁結びは誰と誰をつなぐ？♪11月、出雲方面

へ旅行し、出雲大社へも行きました(下写真)。縁結びで有名ですが、実はこの「縁」というのは男女のことばかりではなく、地上に生きるあらゆるもののつながり(縁)を意味しているのだそうです。これは素晴らしいことだなあ。大きいな



あ！と思ったのでした。

### 編集後記&自己紹介

半年時間が空いてしまうと、記事にまとめるのはなかなかタイヘンだった。これからはこまめに出すゾと決意。何しろ書きたいことが多すぎて、文字だらけになってしまうのです。ゴメン！

★私は、横浜市の里山を生かした公園でスタッフとして自然の



保護・保全やイベントの運営に携わる一方、「あおぞら自然共育舎」と名づけ、フリーランスで自然体験・再生・創出のための活動をしています。「気づき」を大切にすることが信条。この通信で自然のことや私の活動のことなどについて発信し、それから、もっともっと身近な話題もお届けしながら、日常で自然とのふれあいを楽しむヒントのようなことも、お伝えできたらなあと思っています(今回は泣く泣く割愛したものも…)★今のところ、この通信は私が会った方や知っている方にお渡しするだけにしていますが、ご家族やお友達との回し読み歓迎です☆☆☆横浜市戸塚区在住、1963年6月生まれ。

\*仕事の依頼や相談、感想はこちらまでお気軽に！

→早川広美(あおぞら自然共育舎): [hiromi-h@river.dti.ne.jp](mailto:hiromi-h@river.dti.ne.jp)

コーヒーとともにページをめくるひととき…

### ★その1

『オーガニック・ガーデン・ブック』

ひきちガーデンサービス著、築地書館、2002

「町場の植木屋さん」が書く、庭仕事のいろはから、いのちのめぐる庭、自然農薬、有機堆肥の作り方、病虫害にあいにくい剪定方法、ピオトープ、植木屋との付き合い方、夫婦別姓まで、読み応えがあるのにスイスイ読めてしまう。ご夫婦である著者の人柄もよく表れているし、イラストもかわいい。時間のある時にパラパラめくっては、いつも発見がある楽しい本です。